

2019年度 短期海外研修Ⅰ・Ⅱ報告書

2019年9月15日から25日までの11日間、「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ」が、上海市と成都市・西南財経大学金融学院で開講されました。本学部からは8名（4年：2名、3年：1名、2年：5名）が参加しました。上海市では、長崎県上海事務所と福岡銀行上海駐在員事務所を訪問し、中国や上海市の最新の経済事情や長崎県との関係についてお話ししていただきました。その翌日からは成都市の西南財経大学で研修が始まり、初めに生活の上で必要不可欠な中国語を学ぶ「Survival Chinese」の授業が開かれました。翌日からは金融に関する基本から応用まであらゆる分野の授業を英語で受講しました。例を挙げると、株価の決定理論を専用ソフトで実践を通して学び、コーポレートファイナンスの授業ではユニコーン企業の業績など事例を知りました。8名での受講であったこと、そして日本とは授業スタイルが異なるため、授業では発言が求められることが多くありました。本学部の学生達にとってコミュニケーションのツールとしての英語の重要性、また専門知識の必要性を痛感した体験となりました。

この研修では授業の受講だけでなく、異国での様々な体験もありました。西南財経大学内にある大学の歴史と中国の貨幣の博物館や、成都市の今後の都市計画を説明した博物館の見学、中国の伝統文化の体験、中心市街地の訪問など盛りだくさんの内容でした。毎日、西南財経大学の学生達のサポートがあり、充実した研修となりました。サポート学生の中には日本語を勉強している学生や、日本に留学予定の学生もおり、互いに仲を深めることができました。

協定校である西南財経大学で授業を受けたことや、中国での生活の中で、異文化を肌で感じたり、経済の成長を実感したりしたことは非常に有意義なものでした。これからも、本学部と西南財経大学は学生の派遣や、短期研修の実施を通して、連携をとりながらつながりをさらに強めて参ります。参加した学生の皆さんはこの経験を今後の学生生活に十分に役立ててほしいです。そして今回の研修でお世話になった西南財経大学の担当職員、教員、学生の皆さん、誠にありがとうございました。

【学生の感想】

今回は西南財経大学の先生、学生にお世話になりました。私が特に印象に残っているのは携帯での決済についてです。大型商業施設だけでなく屋台などにも支払い用のQRコードが置いてあり、それを読み取って支払いをしているところを何度も目にしました。自転車での移動から買い物まで生活の全てが携帯一つで可能であることから、中国での携帯電話の重要性を感じました。また、観光地から離れたスーパーでの買い物の際には、2、3人が現金で支払いただけでお釣りが切れかけたことがあり、中国でのオンライン決済の浸透度を強く感じました。長崎県上海事務所の方の話によると、これから上海-長崎間の飛行機の本数が増えてくるとのことなので、オンライン決済以外でも、中国からの旅行者にとって日本に必要なもの、あったら嬉しいものについて考えて行きたいと思いました。



西南财经大学の学生とともに



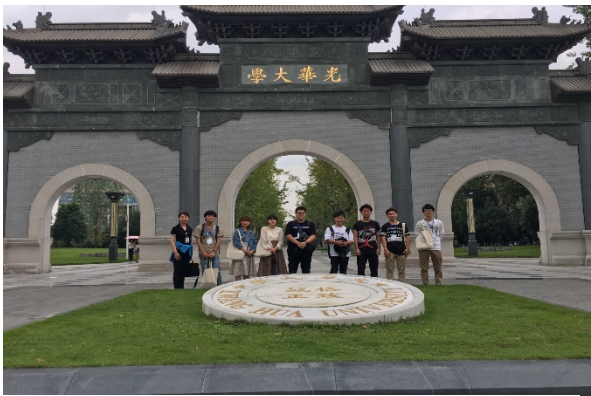
長崎県上海事務所、福岡銀行上海駐在員事務所前



文化体験 ①



文化体験 ②



キャンパス内の大門



乐山大佛（楽山大仏）



杜甫の住まい（杜甫草堂）



成都中心部のショッピングモール IFS（国際金融中心）



中華料理 ①



中華料理 ②